

静岡県芝草研究所

2012年10月1日に農林技術研究所内に芝草研究所が設立されました。研究所では、主に小学校の校庭緑化に力を入れていきます。校庭緑化推進の為に

- ①維持管理に関する不安の解消
- ②持続可能な管理手法の提案

を実施していきます。



浜北森林公園での試験

公園などの低管理（少ない施肥量と刈り込み）の条件下では、
コウライシバ>ノシバ>バミューダグラス
の順で芝の密度が高く状態も良くなります。

出来るだけ少ない予算で芝生を管理したい場合、

踏圧が少ない → コウライシバ

踏圧が多い → ノシバやバミューダグラス

と芝種を選択すると良いでしょう。

注：ノシバやバミューダグラスの使用下では、施肥や刈り込み頻度がコウライシバより多く必要になります。結果、管理予算を多く必要とします。

踏圧が多いとされている校庭には、

- ①擦り切れ耐性に強いノシバ
 - ②生育の速いバミューダグラス
- を使用する事が望ましいとされています。芝草研究所では、過去の研究を引き継ぎ、開発中のノシバ20系統を精査していきます。

2013年春から、屋外圃場にてノシバ20系統に加え市販の品種を含め評価をし、

数年後に校庭緑化用の新品種の発表を目指しています。



開発中のノシバを温室にて管理



古い気象センサーを撤去中



屋外圃場全景